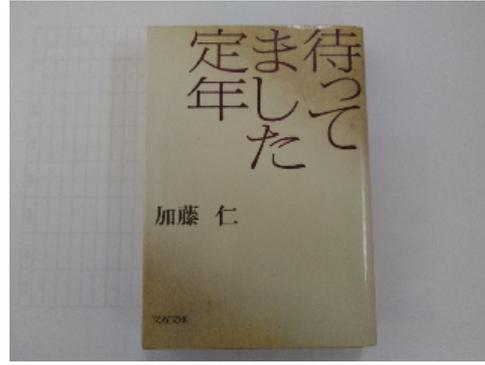


「碑文谷彫(ひもんやぼり)」(工芸絵画)で健康寿命を伸ばそう!!(掛川市)



講師の宮本守さん



「待ってました定年」の本

皆さんは「碑文谷彫(ひもんやぼり)」という絵画と彫刻を兼ね備えた工芸絵画をご存知ですか？今回は、定年を迎えた高齢者の皆さんが趣味として「碑文谷彫」を楽しんでいる二つの会を取材しました。

一つは「掛川碑文谷彫の会」、もう一つは「大東碑文谷彫の会」です。二つの会とも宮本守さん(82歳)が講師として会員の指導にあたっています。

そこで、宮本守さんに「碑文谷彫」という珍しい工芸絵画を始めたきっかけを聞いてみました。

昭和54年に元掛川市長の榛村純一さんが全国に先駆けて「生涯学習都市」を宣言されました。その中で、「生涯学習とは自己充実をはかって楽しく生活していくこと」が掲げられました。一例として「一人一芸一スポーツ」ということを言われました。さらに、「芸の無い人は何か趣味をもてばいい、スポーツの出来ない人は散歩でもいいですよ」と言われました。定年退職が近づいて来た自分の退職後を考えると憂鬱な日々でした。そこで、誰もやっていない趣味探しをするために図書館や本屋へ度々通いました。そして出会った本が「待ってました定年」(加藤仁著)でした。その本に岸田利女(きしたとしじょ)先生の「廃物木彫りの考案者 老いの楽しみ教えます」というエッセイがあり、それに感銘を受けました。早速著者の加藤仁先生から岸田利女先生の住所(東京都目黒区)を聞き、岸田利女先生との交流が始まりました。

その当時、岸田利女先生はすでに97歳という御年でした。そこで数回岸田利女先生から「碑文谷彫」を教えていただいた後は、一番弟子の佐藤えみ子先生(東京都目黒区)に3年間教えていただきました。これが「碑文谷彫」を始めるきっかけになりました。

その後、自作品作りに邁進し、退職5年後の平成14年11月にJR掛川駅前の中部電力ギャラリーで個展を開くことになりました。



掛川碑文谷彫の会習作展



見事な習作展の作品

平成15年に掛川市生涯学習センター内の生涯学習アドバイザー室の方より「碑文谷彫」の講座の講師の依頼を受け、平成16年4月に「掛川碑文谷彫の会」が誕生することになりました。以降、毎年1回会員とともに習作展を開催してきました。平成16年、18年、22年、26年、28年、29年とNHKローカルニュースで習作展の様子が紹介されました。そして徐々に会員数も増え現在は19名に至っています。



[大東碑文谷彫の会習作展](#)



[見事な習作展の作品](#)

平成21年には、掛川市社会福祉協議会老人福祉センター山王荘（大東区域）の方から「高齢者生きがい事業」の一環として「碑文谷彫教室」を企画するので講師をお願いしたいとの依頼を受け、老人福祉センター山王荘で平成21年4月から活動がスタートしました。こうして誕生したのが「大東碑文谷彫の会」です。現在会員数は13名です。（静岡県内で「碑文谷彫」を教えているのはこの2か所だけです）



[中東遠総合医療センター「絵画の小径」の展示作品](#)



[中東遠総合医療センター「絵画の小径」の展示作品](#)

会員のボランティア活動として、毎年4月は「大東碑文谷彫の会」、7月は「掛川碑文谷彫の会」が中東遠総合医療センター2階（掛川市）の「絵画の小径」にてそれぞれ1か月ずつ展示会をしています。患者さんや付き添い看護の皆さんにご好評をいただき、会員も熱心に楽しく頑張っています。

また会員の皆さんの習作展は「掛川碑文谷彫の会」が毎年3月に掛川市生涯学習センターギャラリーで開催、「大東碑文谷彫の会」が毎年10月に掛川市文化会館シオーネ展示ロビー又は掛川市立大東図書館で開催しています。



[碑文谷彫とは？](#)



[制作過程](#)



[机の板\(廃材利用作品\)](#)



[酒樽の蓋\(廃材利用作品\)](#)

「碑文谷彫」について

◆準備するもの

- ・板(廃材や空き箱の蓋、合板など)
- ・彫刻刀 丸刀、三角刀、平刀
- ・水彩絵の具、水彩筆
- ・紙ヤスリ
- ・透明ラッカー

※廃材(以前は酒樽の蓋、菓子箱の蓋、机の廃材などが使われた)
現在ではなかなか手に入らないので合板を使用しています。

◆制作過程

1. 板にカーボン紙で下絵を写す(下絵は講師が準備)
2. 彫刻刀で輪郭を彫る(線彫、丸彫、飾り彫の3種類がある)
3. 紙ヤスリをかける
4. 墨を塗る
5. 彩色する
6. 透明ラッカーを塗って仕上げる

※会員の皆さんは月1回の指導を受け、2か月に1作品を仕上げています。



[1 板に下絵をカーボンに写す](#)



[2 彫刻刀で輪郭を彫る](#)



3 紙ヤスリをかける



4 墨を塗る



5 彩色する



6 鮮やかに彩色された完成作品

◆ 月1回の勉強会をしています。

- ・掛川碑文谷彫の会
毎月第1火曜日 13:30~15:30
掛川市生涯学習センター工作室
掛川市御所原17-1
TEL0537-24-7777
- ・大東碑文谷彫の会
毎月第2木曜日 13:30~15:30
掛川市社会福祉協議会老人福祉センター山王荘
掛川市大坂2443
TEL0537-72-5370



完成作品を講評する講師の宮本さん



指導する講師の宮本さん

◆ 会員の皆さんに「碑文谷彫」について聞いてみました。

・始めて3年になるAさんは、中東遠総合医療センター2階のギャラリー「絵画の小径」に展示されていた作品を見たのがきっかけで始めました。Aさんはそれまでは版画の世界に取り組んでいましたが、重ね刷りが大変でした。「碑文谷彫」は色づけ(重ね塗り)が難しいですが、作品作りが楽しいです。

・Bさんは、知人(会員)の展覧会を見に行き初めて知り、「いいなあ」と感じ勉強することにしました。難しいところもあるけど楽しいです。

・Cさんは、近所の方(会員)の展覧会を見に行き初めて知り、子どもの頃から図工が好きなので入会して楽しんでいます。彫ることが難しいと思います。材料も安いし、没頭する時間ができて楽しいし、手を使うので認知症の予防(頭の体操)にもなります。

・Dさんは、平成21年4月に「大東碑文谷彫の会」がスタートした時から会員として勉強しています。11年目になります。彫りをしっかりやらないとごまかしがきかないので難しいです。2か月で自分の作品が出来上がるので、それが楽しみです。自作品を孫にプレゼントしたり、玄関に飾ったりして楽しんでます。

現在82歳の宮本さんはこうして「掛川碑文谷彫の会」「大東碑文谷彫の会」の講師として指導をしながら、会員の皆さんといっしょに健康で元気に頑張っています。80歳までは町内（掛川市西町）のお祭りに参加したり、大名行列の徒侍もやったりしました。さらに、認知症になるのを少しでも遅らせようと12年前からマジックを始め、子供会・老人会や教え子たちの同窓会、「碑文谷彫」の会員などに披露しています。12月には今年2回目のマジックショーの予定が入っています。

今年はコロナ禍で「碑文谷彫の会」を3回（3月、4月、5月）中止しました。年1度の習作展や中東遠総合医療センターの展示会も中止しました。とても残念です。早くコロナが終息するよう願っています。

会員の皆さんが趣味として取り組んでいる「碑文谷彫」を、「楽しい」「面白い」と言いながら明るく元気に作品作りをされている姿は、「健康寿命」を伸ばすことに大いに貢献していることでしょう。

（詳細は宮本守さんへ TEL0537-22-5288）

小笠・榛南地区 生きがい特派員 高井 豊